

アジア・アフリカ学術基盤形成事業 平成 23 年度 実施計画書

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	名古屋大学大学院文学研究科
(カメルーン) 拠点機関：	ヤウンデ大学 I
(マリ) 拠点機関：	バマコ大学
(セネガル) 拠点機関：	シェイク・アンタ・ディオップ大学
(タンザニア) 拠点機関：	ダルエスサラーム大学

2. 研究交流課題名

(和文)：伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態

(交流分野：文化人類学)

(英文)：Religious Dynamics of Contemporary Africa concerning the destruction of Traditional Life Mode and New Religious Movement

(交流分野：Cultural Anthropology)

研究交流課題に係るホームページ

シ：<http://afroasia.lit.nagoya-u.ac.jp/~hikaku/dryland/dynamicsreligion/pg267.html>

3. 採用年度

平成 21 年度 (3 年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：名古屋大学大学院文学研究科

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名)：

名古屋大学大学院文学研究科・研究科長・羽賀祥二

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：

名古屋大学大学院文学研究科・教授・嶋田義仁

事務組織：研究協力部研究支援課、文系事務部経理課

相手国 (地域) 側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国 (地域) 名：カメルーン

拠点機関：(英文) University of Yaoundé I

(和文) ヤウンデ大学 I

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of Arts, Letters and Human Sciences ・ Associate professor ・ Saibou Nassourou

協力機関：(英文) University of Ngaoundéré

(和文) ガウンデレ大学

(英文) University of Maroua

(和文) マルア大学

(2) 国(地域)名： マリ

拠点機関：(英文) University of Bamako

(和文) バマコ大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Faculty of Languages, Arts and Human Sciences (FLASH)・Professor・Samba Djiallo

協力機関：(英文)

(和文)

(3) 国(地域)名： タンザニア

拠点機関：(英文) University of Dar es Salaam

(和文) ダルエスサラーム大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Institute of Swahili・Professor・John G.Kiango

協力機関：(英文)

(和文)

(4) 国(地域)名： セネガル

拠点機関：(英文) Cheikh Anta Diop University

(和文) シェイク・アンタ・ディオップ大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Fundamental Institute of Black Africa (IFAN)・Professor・Abdou Salam Fall

協力機関：(英文)

(和文)

5. 全期間を通じた研究交流目標

「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」をテーマに、日本側拠点機関に属する研究者とアフリカ拠点機関に属する研究者とのあいだで、共同研究・研究者交流、セミナー等の学術交流をおこない、共同研究を推進する。そのために、おもに以下のことをおこなう。

1. 日本側拠点機関に属する研究者とアフリカ拠点機関との間で、研究情報を共有するサイバー・ネットワークを構築する。
2. アフリカ拠点機関に眠っている修士論文、博士論文、未刊論文などを共通して利用できるデータ・ベースを構築する
3. 研究成果は電子ジャーナル *Religious Dynamics in Africa* と簡易印刷でも公刊する。
4. 日本人若手研究者のみならずアフリカ人若手研究者の育成を、アフリカと日本の共同指

導によっておこなう。そのために、民間財団資金や国費留学生制度を利用して、日本人大学院生のアフリカの大学への留学、アフリカ人大学院生の名古屋大学への留学を推進する。

5. 研究は、3 テーマ「アフリカ・イスラームの動態」「アフリカの都市化とグローバル化の中での宗教動態」「伝統価値の崩壊と青少年・教育問題と宗教」を柱にしてすすめる。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

6.1 国際シンポジウム・ワークショップを名古屋大学で合計5回開催した。

平成 21 年度： 「伝統様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカの宗教動態」という本プロジェクト名で、プレミーティング（10月10、11日）を行った後、第1回セミナー（12月12日 - 14日）を名古屋大学で開催した。そのなかで、独立50年を迎えるアフリカの「再生」というテーマが浮上した。

平成 22 年度： 「再生としてのアフリカ独立50年」にテーマを絞り、第2回セミナー：第2回国際シンポジウム「再生としてのアフリカ独立50年」（12月13日 - 15日）をおこなった。同時に、プレミーティングとして、第2回国際ワークショップ「再生としてのアフリカ独立50年」、ポストミーティングとして、第3回国際シンポジウム「再生としてのアフリカ諸国独立50年」（3月3日）もおこなった。

6.2 日本側研究者をアフリカの拠点大学、協力大学に派遣した。

平成 21 年度： バマコ大学、シェイク・アンタ・ディオップ大学、ヤウンデ大学 I、マルア大学。平成 22 年度 ダルエスサラーム大学、ガウンデレ大学、マルア大学、バマコ大学。

6.3 成果

平成 21 年度の交流は、日本招聘研究者はカメルーン 2 大学（マルア大学とヤウンデ大学 I）から 2 名、マリのパマコ大学から 1 名、そのうえに、アルジェリアの高等師範学校から 1 名、中国からの研究者も 3 名くわわり、本プロジェクトの意義が伝わるとともに、好評価がえられた。その中で、昨年度追求すべき課題が明らかになった。

平成 22 年度のテーマ： 「再生としてのアフリカ独立 50 年」。それは昨年がアフリカ諸国独立の 50 年祭にあたり、アフリカで 50 年祭を祝う中、50 年の歴史を総括するとともに、今後の行く末をめぐる議論が様々な分野で行われていることをふまえ、今アフリカがどのように変わろうとしているかを明らかにすることであった。そのキー概念となったのが「再生」という言葉であった。これはセネガルがその 50 年祭を祝うに当たりかかげた言葉で、その記念にダカール郊外に奈良の大仏にもまさる、若き男女が肩を組み合って天を指差す巨大なブロンズ像まで建築した。「再生」ということばには、独立したとは言え旧宗主国の潜在的支配下にあったアフリカ国家が今や、自らのイニシアティブで将来を切り開こうというメッセージが込められているのである。旧フランス植民地の優等生国家セネガルのスローガンであるだけに、その政治的文化的意味は深い。

このことをテーマに平成 22 年度は「再生としてのアフリカ独立 50 年」をテーマに、3 回のシンポジウム・ワークショップを開催した。これには、拠点機関協力機関からのアフリカ人研究者は 4 名（バマコ大学 2 名、ダルエスサラーム大学 1 名、ガウンデレ大学 1 名）にくわえて、アルジェリアからの 2 名（アルジェ高等師範大学、アドラール大学）も参加した。

6.4 主な議論の主題

1. アフリカ合衆国実現（2015 年）を目標に掲げるアフリカ連盟（African Union）の運動。

2. その目標を掲げながら、現実的にすさまじい勢いですすんでいる地域共同体（Regional Community 作り（西アフリカ共同体、東アフリカ共同体、赤道アフリカ共同体、南アフリカ共同体など）と、これにともなうアフリカ諸国の解体。これは具体的には、共通パスポート、共通運転免許証、共通自動車登録、関税なしの貿易、隣国との交流を促す道路交通網の整備、などの形ですすんでいる。

3. しかし、シンポジウムで主な主題となったのは、こうした状況下進展している大学などの高等教育・研究機関の地域共通化である。バマコ大学の Diallo 教授はバマコ大学の学長補佐、ダルエスサラーム大学の Kiango 教授はスワヒリ研究所の所長、またガウンデレ大学の Adama 教授はフランスで学位取得、シリアでアラビア語学とイスラーム学習得しカメルーンでアラビア語教授の資格を有するただ一人の教授、アメリカ 2 大学で visiting professor、というカメルーン教育界の最重鎮であり、アフリカ大学の地域的グローバル化運動の最先端にたっているため、この問題に詳しい。

たとえば、南北に長く南に位置する政治の中心となる首都や経済中心となる商業都市から遠く離れた北部に、2 番目の大学（Maroua 大学）が数年前に開設された。1 番目の大学ガウンデレア大学も 20 年足らずの歴史しかないが、今両大学とも近隣諸国（とくにチャド）から流入する学生であふれかえり、教育スタッフも、隣国大学の教育・研究を分担している。

他方、地域グローバル化による主権国家の軟化にともない、地方分権化もすすみ、カメルーンやマリでは大学教育の首都中心から地方分散型にすすんでいる。

東アフリカでは、タンザニア、ケニヤ、ウガンダなどの旧イギリス植民地の国家の大学は、まずロンドン大学の分校として出発し、それが各主権国家の大学として独立したが（ただし学位の審査などにはいまだ旧宗主国国家の教授が関与する）、今は各主権国家の協力により、ふたたび、諸大学の統合がすすみはじめているという。

4. そのうえで、宗教的にも、民族的にも多様なアフリカが、こうした地域的グローバル化のなか、どのように新たな問題に直面しているかが問題になった。

外国人学生と地元学生との軋轢。外国人学生の経済生活の困難さ。キリスト教とイスラームの対立と融和。キリスト教及びイスラームにおける、新興宗教、オカルト、原理主義などの勃興、などの問題である。

6.5 研究交流の基盤づくりの成果

研究交流のためのインターネット・ネットワーク構築は実質的にすすめられている。

博士論文などのデータ・ベースづくりも、アフリカ側の事例がまだ少ないので、ほぼ完成している。次の課題は、すぐれた博士論文を活字印刷あるいは電子出版により出版して、入手しやすくすることにある。

研究成果公開は、3月末を目標に編集をすすめていたが、東日本大地震の影響で、印刷会社の業務が大幅に遅れていることがわかり、22年度中の公開は23年度に延期せざるをえなかった。

学生・若手研究者の共同指導については、以下のような形ですすんでいる。

- ①ガウンデレ大学の大学院生の名古屋大学文学研究科博士課程留学。アフリカ人学生の日本への留学希望、日本人学生のアフリカ大学への留学希望もある。
- ②日本人研究者のアフリカ大学での共同研究、アフリカ人研究者の名古屋大学の共同研究。昨年は大学院レベル研究者及び若手研究者を、1名をダルエスサラーム大学、1名をガウンデレ大学とマルア大学、1名をバマコ大学に派遣した。
- ③日本人大学院生の英語論文、アフリカ人研究者の論文の共同指導。
- ④コーディネイター嶋田のマルア大学学術委員への就任

7. 平成23年度研究交流目標

「研究協力体制の構築」

・平成21年よりコーディネイターの嶋田はマルア大学の学術委員になりマルア大学学術紀要の編集委員ともなっているが、こうした名古屋大学とアフリカ拠点大学・協力機関間の共同研究推進制度のさらなる進展をめざす。

- ・ *Religious Dynamics in Africa* の共同査読共同編集による発刊。
- ・ 学術論文作成にあたっての共同査読。
- ・ 大学間協力契約の形成。

「学術的観点」

「研究は、3テーマ「アフリカ・イスラームの動態」「アフリカの都市化とグローバル化の中の宗教動態」「伝統価値の崩壊と青少年・教育問題と宗教」を柱にしてすすめる」ことを、当初の目標にしてきたが、2年の研究を通じて、「再生としてのアフリカ独立50年」というテーマが浮上してきた。そして、「再生としてのアフリカ独立50年」の背後にあるのは、アフリカ連合(AU)形成によってはじまった、アフリカ合衆国実現、その前段階としての地域共同体づくり、それにとまなう主権国民国家体制の流動化という、アフリカ自身のイニシアティブにもとづくアフリカ造りの運動である。

その大枠のなかで、3テーマ「アフリカ・イスラームの動態」「アフリカの都市化とグローバル化の中の宗教動態」「伝統価値の崩壊と青少年・教育問題と宗教」を統合的に考察する研究をすすめていきたい。「再生としてのアフリカ」運動の過程には、地域紛争や暴動、

宗教間対立や、新宗教運動、アフリカ内的な新たな市場経済の交流がともなうとおもうが、こうした混乱の背後にある構図も、この角度からの研究でかなり整理することが可能となるよう、研究方法・研究視座の体系的整理をはかりたい。

「若手研究者養成」

2年間の研究成果を速やかに公表することを通じて、若手研究者がそれぞれの研究課題を探究・発見しやすい研究環境を構築する。

そのうえで、研究協力関係にある大学の研究者の共同指導を通じて、本年多数の若手研究者に多数の論文作成をおこなわせる。公表は *Religious Dynamics in Africa* でおこなう。

8. 平成23年度研究交流計画概要

8-1 共同研究

「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態：再生としてのアフリカ」を共同研究全体のテーマとしたうえで、3研究テーマについて研究班での共同研究をまとめる。ただし、国際共同研究は共同でおこなう。

- ①「アフリカ・イスラームの動態」班 責任者 嶋田義仁・文学研究科教授。
- ②「アフリカの都市化とグローバル化の中での宗教動態」班 責任者 和崎春日・中部大学・国際関係学部・教授。
- ③「伝統価値の崩壊と青少年・教育問題と宗教」班 責任者 佐々木重洋・文学研究科准教授。

国際共同研究は、カメルーンの研究者2名と、タンザニア、マリ、セネガルからの研究者それぞれ1名を、延べ合計40日名古屋に招き、共同研究をおこなうとともにセミナーもおこなう。3名の日本側研究者をアフリカ拠点研究機関に派遣、共同研究・研究者交流をおこなう。

8-2 セミナー

セミナー 「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態：再生としてのアフリカ」をテーマに、上記した拠点機関研究者との合同共同セミナーを一回開催する。

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

予定なし。

9. 平成23年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	カメルーン 〈人/人日〉	マリ 〈人/人日〉	セネガル 〈人/人日〉	タンザニア 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		1/20		1/20	1/20	3/60
カメルーン 〈人/人日〉	2/16					2/16
マリ 〈人/人日〉	1/8					1/8
セネガル 〈人/人日〉	1/8					1/8
タンザニア 〈人/人日〉	1/8					1/8
合計 〈人/人日〉	5/40	1/20		1/20	1/20	8/100

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人・日数としてください。)

9-2 国内での交流計画

11/49 〈人/人日〉

10. 平成23年度研究交流計画状況

10-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成21年度	研究終了年度	平成23年度																																																									
研究課題名	(和文) 伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態 (英文) Religious Dynamics of Contemporary Africa concerning the destruction of Traditional Life Mode and New Religious Movement																																																													
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 名古屋大学大学院文学研究科・教授・嶋田義仁 (英文) Graduate School of letters Nagoya University. Professor. Dr. Shimada Yoshihito																																																													
相手国側代表者 氏名・所属・職	Mali : Dr. Samba Djallo, University of Bamako, Flashe ; Professor Cameroun: Dr. Saibou Nassourou, University of Yaoundé I, Associate professor Tanzania : Dr. John G.Kiango, University of Dar es Salaam, Insitute of Swahili, Senegal : Dr. Abdou Salam Fall, University of Cheikh Anta Diop, Fundamental Institute of Black Africa (IFAN)・Professor・																																																													
交流予定人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">派遣先</th> <th style="width:10%;">日本</th> <th style="width:10%;">カメルーン</th> <th style="width:10%;">マリ</th> <th style="width:10%;">セネガル</th> <th style="width:10%;">タンザニア</th> <th style="width:10%;">計</th> </tr> <tr> <th>派遣元</th> <th><人/人日></th> <th><人/人日></th> <th><人/人日></th> <th><人/人日></th> <th><人/人日></th> <th><人/人日></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本 <人/人日></td> <td></td> <td>1/20</td> <td></td> <td>1/20</td> <td>1/20</td> <td>3/60</td> </tr> <tr> <td>カメルーン <人/人日></td> <td>2/16</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2/16</td> </tr> <tr> <td>マリ <人/人日></td> <td>1/8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1/8</td> </tr> <tr> <td>セネガル <人/人日></td> <td>1/8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1/8</td> </tr> <tr> <td>タンザニア <人/人日></td> <td>1/8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1/8</td> </tr> <tr> <td>合計 <人/人日></td> <td>5/40</td> <td>1/20</td> <td></td> <td>1/20</td> <td>1/20</td> <td>8/100</td> </tr> </tbody> </table>						派遣先	日本	カメルーン	マリ	セネガル	タンザニア	計	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	日本 <人/人日>		1/20		1/20	1/20	3/60	カメルーン <人/人日>	2/16					2/16	マリ <人/人日>	1/8					1/8	セネガル <人/人日>	1/8					1/8	タンザニア <人/人日>	1/8					1/8	合計 <人/人日>	5/40	1/20		1/20	1/20	8/100
派遣先	日本	カメルーン	マリ	セネガル	タンザニア	計																																																								
派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>																																																								
日本 <人/人日>		1/20		1/20	1/20	3/60																																																								
カメルーン <人/人日>	2/16					2/16																																																								
マリ <人/人日>	1/8					1/8																																																								
セネガル <人/人日>	1/8					1/8																																																								
タンザニア <人/人日>	1/8					1/8																																																								
合計 <人/人日>	5/40	1/20		1/20	1/20	8/100																																																								
23年度の研究 交流活動計画	アフリカから5名の研究者を招き、「再生としてのアフリカ」という観点から、アフリカの現代的動態を多角的に解明する国際共同研究を実施する。アフリカには3名の日本側研究者を派遣する。研究成果を Religious Dynamics in Africa 誌にて編集公開する。																																																													
期待される成果	国民国家再編とアフリカ合衆国にむけて動き出したアフリカの動的再編運動にともなう生ずる諸問題（地域共同体形成、高等研究・教育のアフリカ内国際化、経済のアフリカ内グローバル化、人口流動化、アイデンティ・クライシスとあらたなアイデンティ形成、など）が論じられ、今後のアフリカ研究の新たな課題が明らかになる。																																																													
	国内での交流 10人/46人日																																																													

日本側参加者数	
25 名	(13-1 日本側参加者リストを参照)
(カメルーン) 国 (地域) 側参加者数	
4 名	(13-2 (カメルーン) 国側参加者リストを参照)
(マリ) 国 (地域) 側参加者数	
2 名	(13-3 (マリ) 国側参加者リストを参照)
(タンザニア) 国 (地域) 側参加者数	
1 名	(13-4 (タンザニア) 国側参加者リストを参照)
(セネガル) 国 (地域) 側参加者数	
1 名	(13-5 (セネガル) 国側参加者リストを参照)

10-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 伝統様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカの宗教動態：再生としてのアフリカ
	(英文) JSPS AA Science Platform Program Religious Dynamics of Contemporary Africa concerning the destruction of Traditional Life Mode and New Religious Movement : African Renaissance
開催時期	平成 23 年 10 月 8 日 ~ 平成 23 年 10 月 10 日 (3 日間)
開催地 (国 (地域) 名、都市名、会場名)	(和文) 日本、名古屋、名古屋大学大学院文学研究科
	(英文) Japan, Nagoya, Graduate School of letters Nagoya University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 名古屋大学大学院文学研究科・教授・嶋田義仁
	(英文) Graduate School of letters Nagoya University. Professor. Dr. Shimada Yoshihito
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国(日本)	
日本 〈人／人日〉	A.	1/3
	B.	4/12
	C.	21/66
カメルーン 〈人／人日〉	A.	
	B.	2/16
	C.	
マリ 〈人／人日〉	A.	
	B.	1/8
	C.	
セネガル 〈人／人日〉	A.	
	B.	1/8
	C.	
タンザニア 〈人／人日〉	A.	
	B.	1/8
	C.	

合計 〈人／人日〉	A.	1/3
	B	9/52
	C	21/66

A.セミナー経費から負担

B.共同研究・研究者交流から負担

C.本事業経費から負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

セミナー開催の目的	アジア・アフリカ学術基盤形成事業として展開された3年間の「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」研究の諸成果を、「再生としてのアフリカ」という観点から総合するセミナーとする。これにより、名古屋大学文学研究科を拠点におこなわれた名古屋大学とアフリカ主要6大学との国際共同研究の成果を公開し、若手研究者を、最先端のアフリカ研究の流れのなかに巻き込む。
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> － 「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」を研究課題に、名古屋大学大学院文学研究科を拠点におこなわれたアフリカ大学との研究交流が、充実した成果をあげたことが内外に明らかにされる。 － 「再生としてのアフリカ」という概念によって「伝統的生活様式の崩壊と再宗教化をめぐる現代アフリカにおける宗教動態」と、21世紀に突入したアフリカの現代的動態がともに解明できることを示す。 － 「再生としてのアフリカ」という簡明な概念によって、今後のアフリカ研究が進むべき新たな方向を示し、これにより日アフリカの若手研究者のあいだに新たな研究交流とあらたなアフリカ研究の潮流がつくられることが期待される。

セミナーの運営組織		コーディネイター： 嶋田義仁 名古屋大学大学院文学研究科・教授 運営委員： 和崎春日 中部大学・国際関係学部・教授 佐々木重洋 名古屋大学大学院文学研究科・准教授 山田肖子 名古屋大学大学院文学研究科・准教授 事務局 松平勇二 名古屋大学大学院文学研究科博士課程 ウスマース・アダマ名古屋大学大学院文学研究科博士課程	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容	国内旅費 15,000 円
			謝金（運営事務補助者＋セミナー基調講演者） 175,000 円
			備品・消耗品 30,000 円
			その他経費 50,000 円
			消費税 5,000 円
			合計 275,000 円
	() 国（地域）側	内容	金額
	() 国（地域）側	内容	金額

10-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

予定なし。

1 1. 平成23年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	515,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	3,330,000	
	謝金	585,000	※運営事務補助者、セミナー基調講演者
	備品・消耗品購入費	100,000	
	その他経費	300,000	
	外国旅費・謝金に係る消費税	170,000	
	計	5,000,000	研究交流経費配分額以内であること
委託手数料		500,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。 また、消費税額は内額とする。
合計		5,500,000	

1 2. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

	経費使用見込み額 (円)	交流計画人数<人/人日>
第1四半期	200,000	2/8
第2四半期	1,800,000	5/68
第3四半期	2,400,000	10/63
第4四半期	600,000	2/10
合計	5,000,000	19/149